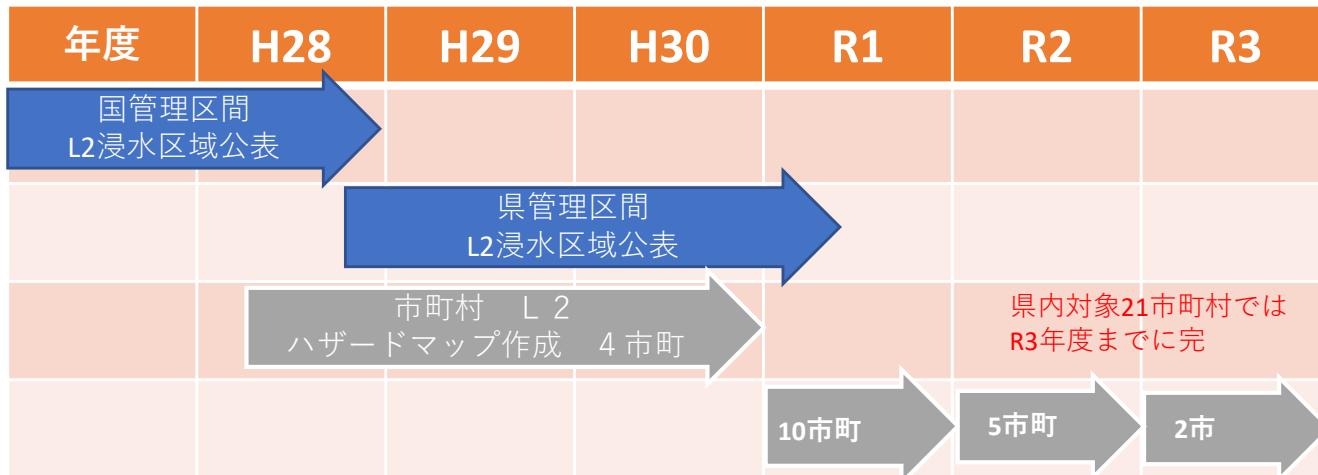


#### 取組（1）水害（災害）に強い人づくりの推進

## 「県管理河川の想定最大規模の浸水想定区域の指定・公表」 「市町村への洪水ハザードマップ作成支援」

宮崎県

- ・令和元年7月までに、宮崎県が洪水予報河川及び水位周知河川に指定した全35河川について、想定し得る最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域を指定・公表済。
  - ・対象となる市町村では、公表した洪水浸水想定区域をもとにした洪水ハザードパップの見直し、令和3年度までにすべての対象市町村で完了予定。



## R1.8.29 大淀川、小丸川・一ツ瀬川実務担当者会議

### R1年度洪水ハザードマップ作成にかかる 勉強会を協議会単位で実施



R1. 7までに対象河川全35河川で指定完了  
(R1. 7. 19 宮崎日日新聞)



ツの見直し内容や、市地  
域防災計画の一都改訂の報  
告が行なわれた。写真。  
議会では市危機管理課の  
担当者が、「最新の市防災マ  
ップの見直し部分を報告。  
広渡川・酒谷川などを指定  
全河川の想定最大規模洪水  
浸水区域を追加した点など  
を説明し、5月までの間に  
金世帯へ配布することとした。  
市地域防災計画の一都改  
正案についても報告。洪水規  
による想定水位以上の高さに  
に避難スペースが確保でき  
ない施設を避難所から除外す  
る点や、南郷小の裏山や  
伊比井西側農地など整備を  
行った4カ所を、新たに津波  
波速急避難場所に追加する  
ことなどを説明した。

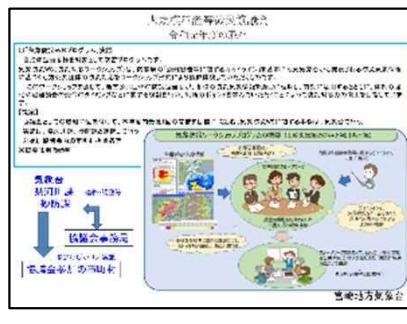
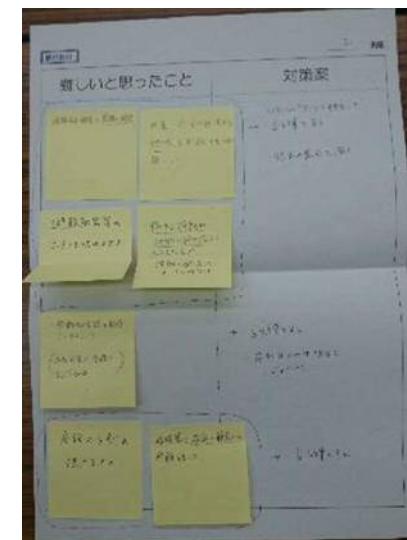
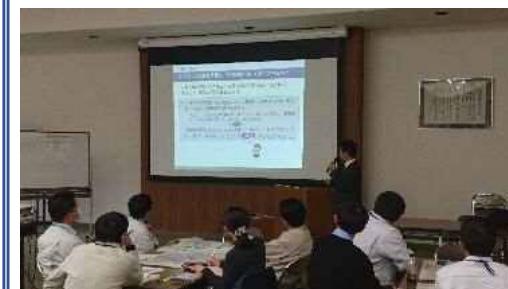
## R2. 2. 26 日南市 洪水ハザードマップの見直し (R2. 3. 4 宮崎日日新聞)

# 取組（1）水害（災害）に強い人づくりの推進

## 「気象防災ワークショップの開催」

宮崎県

- ・県では、宮崎地方気象台と連携し、県内3地域において気象防災ワークショップを開催。  
(県内11市町、宮崎地方気象台、県(危機管理課、河川課、砂防課、土木事務所)、合わせて89名参加)
- ・ワークショップでは、気象台から発表される防災気象情報に基づく防災対応を疑似体験し、市町村の防災担当者等が、各種の防災気象情報を適切に理解し、体制の強化や避難勧告の発令のタイミングなどに関する検討を行い、判断のポイントを学んでいただくことによって防災対応力の向上を目指すもの。
- ・各ワークショップでは、活発な意見交換が行われ、「発令のタイミングの判断の難しさ」「避難エリア決定の重要性」「先読みすること」などの感想が出され、他自治体との意識共有も図ることができ大変有意義なものとなった。



日向地区 (R1.7.30)

日南・串間地区 (R2.1.16)

西臼杵地区 (R2.1.20)

# 「マイハザードマップ作成の支援」

宮崎県(砂防課)

- ・砂防課では、土砂災害のおそれのある区域の周知や避難に関する知識の習得、地域コミュニティの強化を図るため、マイハザードマップ作成支援を行っている
- ・令和元年度は、都城市と西都市で実施した
- ・令和2年度は、作成支援と事例集の作成・配布を行う

## 作成支援の流れ

1. 事前準備  
地区の選定、資料準備、事前打合せを行う
2. マップ作成  
地区住民へマイハザードマップについて説明し、話し合いながらマップを作成する

### 都城市の場合

日時: 令和元年12月15日  
開催地: 乙房地区  
参加人数: 25人

#### 住民感想

- ・連絡所の必要性を感じた
- ・危険場所を確認できた
- ・夜に災害が発生した場合も考える必要があると感じた等々…



【作成状況】

### 西都市の場合

日時: 令和2年2月1日  
開催地: 清水地区  
参加人数: 36人

#### 住民感想

- ・早期避難の重要性が再確認できた
- ・緊急連絡網を確認した方がいいと感じた等々…



【作成状況】



【発表状況】



【発表状況】

## 取組（2）情報伝達のための環境づくり推進

### 「簡易型河川監視カメラの設置」

宮崎県

- 平成30年7月豪雨災害の報道等では、「川沿いに設置した監視カメラの映像を見て避難につながった」との事例がある等、「住民に切迫感を伝えるために何ができるか」が課題となっている。
- 3か年緊急対策では、氾濫の危険性が高く、人家や重要施設のある箇所等に「簡易型河川監視カメラ」を設置。本県では、従来の監視カメラ63基に加え、簡易型河川監視カメラを新たに27箇所に設置している。



(設置例) 瓜田川 輪中堤 (内水監視)



(設置例) 大谷川 城の下橋水位観測所



## 「要配慮者利用施設における避難確保計画の作成」

宮崎県

- 平成29年の水防法・土砂法の改正により、洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域内に立地し、市町村の地域防災計画に位置づけられた要配慮者利用施設の所有者等は、避難確保計画を作成することが義務づけられている。
- 各市町村では、施設所有者等向けの説明会等を実施しており、令和2年1月末時点（速報値）では、783施設の内、585施設において計画が作成されたところである。
- 今後とも各関係機関と連携を図り、早期の作成完了を目指していく。

	H30.3末	H31.3末	R2.1末
市町村数	9	9	11
対象施設数	424	613	783
作成済施設数	85	141	585
<b>作成率</b>	<b>20.0%</b>	<b>23.0%</b>	<b>74.7%</b>
目標 (国緊急行動計画)	R3年度末までに100%		

要配慮者利用施設における避難確保計画の作成状況（洪水浸水想定区域）

### 社会福祉施設(川越市の特別養護老人ホーム)の対応

- 埼玉県川越市の川越キングスガーデンでは、過去の水害経験を踏まえ、洪水に対する避難確保計画を作成しております、毎年、避難訓練を実施
- 平成30年11月の関東地方整備局、埼玉県及び川越市等による「避難確保計画作成の講習会(前期・後期)」に参加し、平成31年1月に避難確保計画を見直し・提出
- 令和元年10月の台風第19号においても、避難確保計画及び避難訓練に基づき、迅速な避難行動を実施し、職員・利用者100人全員が無事避難

#### 【川越キングスガーデン】

- 避難確保計画を作成(平成29年)
- 避難訓練の実施(毎年実施)
- 避難確保計画作成の講習会に参加(平成30年11月)
- 避難確保計画の見直し・提出(平成31年1月)

#### 台風第19号時の川越キングスガーデンの対応

- |          |  |
|----------|--|
| 12日 10時頃 | 重篤者の移動、避難のための準備を開始<br>職員24人待機、水位・雨量情報収集          |
| 13日 2時頃  | 避難開始、川越市に避難開始の報告<br><b>氾濫</b><br>川越市より越辺川破堤の情報提供 |
| 13日 4時頃  | 避難完了、川越市へ報告                                      |
| 13日 夕方   | 警察等により、近傍の避難所へ全員避難                               |

令和元年10月の台風第19号では、避難確保計画及び毎年の避難訓練に基づき、迅速な避難を実施し、職員・利用者全員が無事避難



【参考資料（国交省）】令和元年度台風19号における社会福祉施設での避難事例

## 取組（3）水害（災害）に強いまちづくりの推進

### 「不動産関係団体の研修会等の場における水害リスクに関する情報の解説」 宮崎県

- ・宮崎県では、不動産関係団体が実施する研修会において、県河川課職員が講師となり、「水害リスクに関する情報の解説」に係る講習会を実施した。（令和元年8～9月に計4回開催。参加企業は613社）。
- ・講習会では、近年の豪雨災害の発生状況や、想定最大規模の降雨に係る洪水浸水想定区域図の入手方法、区域図に表示された水害リスクの見方等を詳しく解説し、宅地や建物の売買の際には、相手方へ水害リスク情報を周知いただくよう、協力を依頼した。
- ・今後とも、不動産関係団体と連携しながら、住民に対する地域の水害リスクの周知に取り組んでいく。



法定研修会 県南支部（R1.9.10）参加企業154社



県北支部（R1.9.11）参加企業127社



県央支部（R1.9.12）参加企業255社

（一社）吉崎農化機械販売事業会社本部（会社） 全国宅地建物取引業者公会連合会  
令和元年度第1回県央支部法定研修会次第  
開催日 令和元年9月12日(木)13時00分  
開催場所 宮崎市民プラザ オルピアホール

1. 開会のことば 講師 岩瀬 崇実  
2. 亂反射率の唱和 理 事 内山 新郎  
3. 支部長挨拶 職員 佐藤 良  
4. 会長挨拶 会 長 木田 文男  
5. 研修課目

1. 水害リスクに関する情報の解説について (13:15～13:30)  
講師 宮崎県土管部 河川課 長 久保田 基彦 氏  
2. 都市計画（まちづくり）について (13:30～14:00)  
講師 宮崎市都市策画部 郡谷井直哉 吉井 勝一 氏  
3. 宅買と售賣に関する民法改正 (14:00～16:20)  
講師 法務法務事務所 幸 廉 千葉谷 周一 氏  
※途中休憩10分程度あります。

6. 閉会のことば 講師 岩瀬 崇実  
司会及び講師の紹介 理 事 上木誠 利

水害リスクに関する情報の解説について  
令和元年9月 宮崎県国土整備部河川課

主な  
（1）近年の豪雨災害について  
（2）県主導で実施する施策に係る洪水浸水想定区域図の概要、公表  
（3）洪水浸水想定区域図を参考した防護・対応マップ  
（4）ハザードマップによる居住生息度の割合  
（5）県主導で実施する河川改修工事  
（6）水害リスク評価における国土調査説明  
（7）国土災害情報データベース  
（8）国土災害情報データベース

公益社団法人不動産保証協会宮崎県本部  
(共催: 全日本不動産協会宮崎県本部)

法定講習会 (R1.8.6)  
参加企業 77社

#### 水害リスクに関する情報の解説 説明資料（抜粋）

（2）－1 想定最大規模の降雨に係る洪水浸水想定区域図の指定・公表

宮崎県が洪水予報河川及び水位監視河川に指定した全35河川について、想定する最大規模の降雨を対象とした洪水浸水想定区域を本年7月までに指定・公表。（県のホームページで公表）  
区域を含む市町村では、公表した洪水浸水想定区域をもとにした洪水ハザードマップを作成予定。  
※本件は平成24年7月に開催されたもので、本件は平成25年7月に開催されたものです。

2. 想定最大規模の降雨に係る洪水浸水想定区域図

■ 想定最大規模の降雨に係る洪水浸水想定区域図  
（1）想定最大規模の降雨により想定される洪水浸水想定区域及び水深  
（2）想定最大規模の降雨により想定される洪水浸水想定区域  
（3）想定最大規模の降雨により想定される洪水浸水想定区域  
（4）想定最大規模の降雨により想定される洪水浸水想定区域  
（5）計画地盤面により想定される洪水浸水想定区域及び水深

■ 県ホームページでの公表  
<http://www.pref.miyazaki.lg.jp/sokuhakubun/siseki/houshikenri.html>  
●公表する洪水浸水想定区域図（5種類）  
①想定最大規模降雨により想定される洪水浸水想定区域及び水深  
②想定最大規模降雨により想定される洪水浸水想定区域  
③想定最大規模降雨により想定される洪水浸水想定区域  
④想定最大規模降雨により想定される洪水浸水想定区域  
⑤計画地盤面により想定される洪水浸水想定区域及び水深

#### 洪水浸水想定区域図の入手方法を解説

（2）－2 想定最大規模の降雨に係る洪水浸水想定区域図の指定・公表  
(宮崎市加江田川の事例)

上宮崎大橋南側面により想定される洪水浸水想定区域及び水深  
左宮崎大橋南側面により想定される洪水浸水想定区域  
右宮崎大橋南側面により想定される洪水浸水想定区域  
上宮崎大橋南側面により想定される洪水浸水想定区域  
左宮崎大橋南側面により想定される洪水浸水想定区域  
右宮崎大橋南側面により想定される洪水浸水想定区域  
※想定最大規模降雨により想定される住宅倒壊危険想定区域（洪水氾濫）  
※想定最大規模降雨により想定される家庭用排水管破裂想定区域（河水氾濫）

#### 浸水想定区域図に表示された水害リスクを解説

# 宮崎地方気象台

---



国土交通省

*Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism*

## ⑤防災組織、自治会、学校教育機関、企業、福祉施設等を対象とした防災意識調査を踏まえた防災訓練、防災教育等の推進

- 「地方公共団体防災担当者向け気象防災ワークショップ」や「気象庁ワークショップ『経験したことのない大雨 その時どうする?』」を実施し、防災対応力の向上や安全行動のシミュレーションを実施。

### 日向土木事務所での気象防災ワークショップ



進行



グループワーク

### 延岡市自主防災組織での気象庁ワークショップ



西山九州大学助教による講話

栗原気象予報士と  
気象台職員による進行

発表



グループワーク



発表

### ■成果

年度当初等に自治体単位でこうしたワークショップを行えると理解も深まる意見もあり、好評であった。

### ■今後に向けて

引き続き防災気象情報を利活用した実践的なワークショップの取り組みを進める。

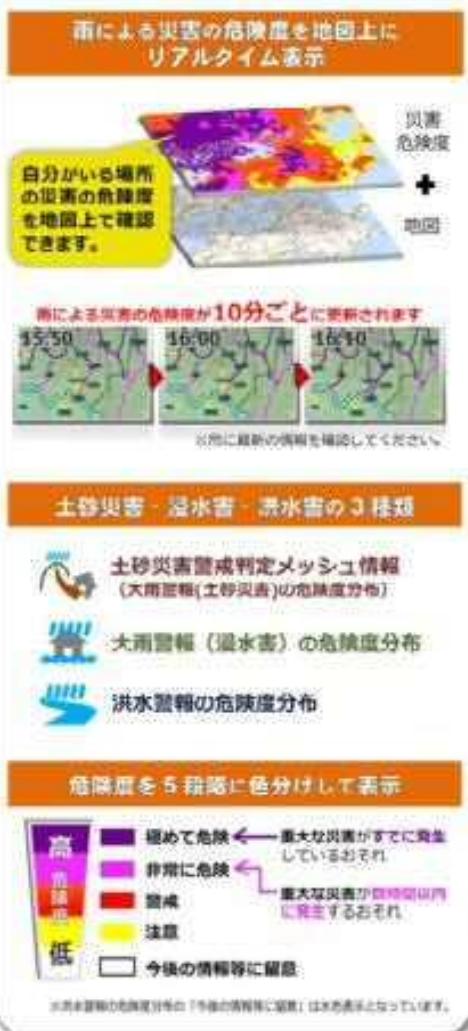
### ■成果

対話形式・他班の話を聞いての進行は非常に参考になったと意見もあり、好評であった。

## ⑧ICTを活用した洪水警報、大雨警報、土砂災害警戒情報等の提供

○防災気象情報の改善として、災害の危険度を地図上にリアルタイム表示する「危険度分布」をスマートフォン版ホームページでも提供し防災気象情報を配信し、GPS機能も活用し現在地の危険度も把握することが可能。

### 危険度分布とは？



### スマートフォン版ホームページ



### ■成果

危険度分布や雨の予想により災害の危険度が高まっていることを知ることができ、GPS機能を利用して現在地の危険度も知ることができます。

天気予報、アメダス、警報・注意報、霧島山の火山情報などをコンパクトにまとめ、容易に情報入手が可能。

### ■今後に向けて

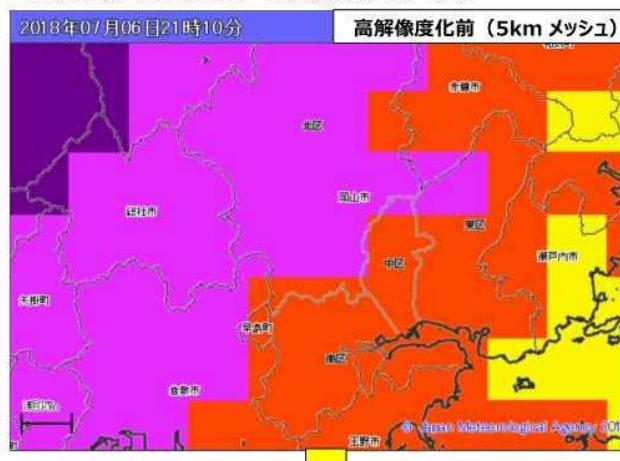
引き続き、出前講座、各種会議等を利用し、利活用や避難について周知啓発を行う。

## ⑧ICTを活用した洪水警報、大雨警報、土砂災害警戒情報等の提供

- 「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」（土砂災害警戒判定メッシュ情報）を5kmメッシュ単位から1kmメッシュ単位に高解像度化。
- 「危険度分布」等が示す危険度の変化を、メールやスマホアプリで伝えるプッシュ型の通知サービスを開始。

### 大雨警報(土砂災害)の危険度の高解像度化

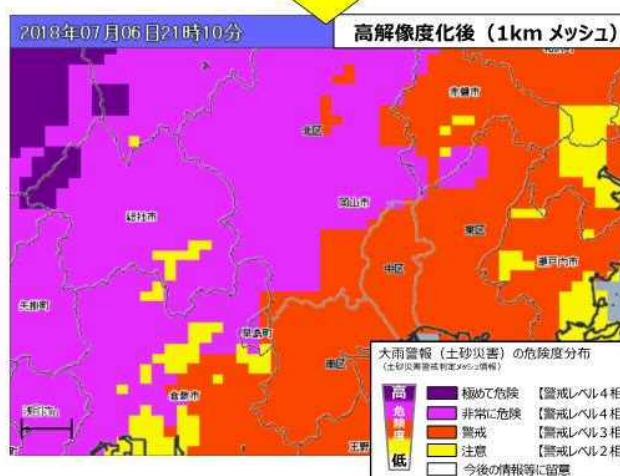
「大雨警報(土砂災害)の危険度分布」の例



#### ■成果

高解像度化により住民の避難が必要な範囲をより適確に示すことが可能となり、市町村が避難勧告等を発令する際の対象地域の絞り込みの情報となる。

住民の方々に一層の「我が事感」をもつて危険度の高まりを把握いただく等、避難行動の判断の情報となる。



上：高解像度化前の危険度分布（平成30年7月6日の岡山県内の領域について実際に発表したもの）

下：高解像度化後の危険度分布（同領域について事後に再計算して高解像度化したもの）

### 危険度分布の通知サービス



#### うす紫【非常に危険】



#### 濃い紫【極めて危険】



#### ■成果

土砂災害や洪水災害等から避難が必要な状況となっていることにすぐに気付くことができるようになり、自主的な避難の判断に活用が可能。

この通知を受信したときには、どこで危険度が高まっているか「危険度分布」の地図で確認し危険な地域を把握。

#### ■今後に向けて

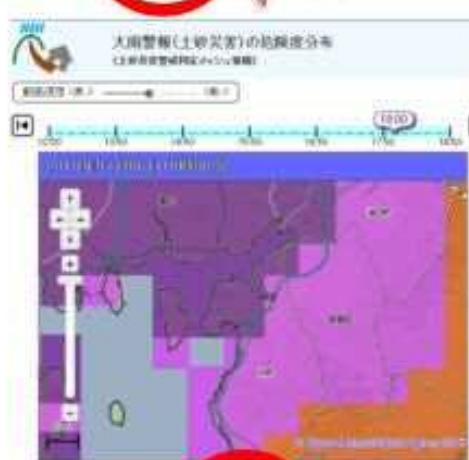
引き続き、出前講座、各種会議等を利用して、利活用や避難について周知啓発を行う。

## ⑧ICTを活用した洪水警報、大雨警報、土砂災害警戒情報等の提供

○大雨の危険度と併せ、危険性も同時に確認できるよう、「洪水警報の危険度分布」及び「大雨警報（土砂災害）の危険度分布」に洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域等のリスク情報を重ね合わせて表示できるよう改善。



洪水浸水  
想定区域を  
重ね合わせ



土砂災害  
警戒区域等を  
重ね合わせ



**■成果**  
「危険度分布」と洪  
水浸水想定区域及び  
土砂災害警戒区域等  
のリスク情報を重ね合  
わせて表示することで、  
住民の自主的な避難  
の判断や、市町村の  
より適切な避難情報  
の発令につながる。

ボタンで切替



**■今後に向けて**  
引き続き、出前講座、  
各種会議等を利用し、  
利活用や避難について周知啓発を行う。